

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東栢井66-1		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200278&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200278&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が同じ理念のもと、個人を尊重した個別ケアの重要性を意識し、入居者の過去や生活歴などの情報収集を行い、毎日のケアに活かすよう心がけながら、出来なくなったことより残された可能性を最大限引き出し最後までその人らしく生きがいを持って生活が出来るよう支援に努めている。施設でありながら普通の家で暮らしているような気兼ねのない安心の出来る環境と季節の行事を大切に、今までの暮らしの延長をしているように過ごしていただけるよう努めている。又自分の思いを表現し、訴えることの出来る環境作りや自己決定を重視したケアを支援している

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、地域社会の中での役割りをどうあるべきかを常に考え、「障がいがあっても楽しく生活できる地域社会」の実現を目指している。法人理事長の思いを受け継ぐ管理者を中心に、地域の人たちに、グループホームや認知症について、より詳しく知ってもらうために、熱意をもって取り組んでいる。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けて行けるよう、利用者一人ひとりの人権、プライバシーを守り、言葉掛けや対応等について学習を重ね、全職員で共有しながらサービスの質の向上を目指しているグループホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念とグループホームとしての理念をいつも振り返ることが出来るよう目の届くところに掲げ全職員で共有するとともに理念にそった運営を心がけている	「利用者の立場に立った健康福祉サービス」「地域に対する専門知識・技術の提供」を理念とし、玄関等、目につく所に掲示してある。日々の申送りや朝礼で唱和し、利用者の立場に立ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームと利用者を知ってもらうよう地域の行事には出来る限り参加をしている。地域でのリサイクル収集日には利用者と一緒にペットボトルを持参している。散歩のおりには挨拶をかわすなど日頃から地域になじむよう職員全体でこころがけている	地域の人達と出会える道を日常的に散歩し、挨拶を交わしている。地域の清掃活動には、利用者也職員と共に参加している。地域の各種行事に出向き、「左義長」では、飲食を共にして、地域の人達と楽しく触れ合っている。	地域貢献の一環として、認知症の理解と予防等を、地域住民を対象にした普及活動を検討している。その具体化への取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での行事をとおして利用者を理解していただくようふれあうことが出来るようつとめている。運営推進会議をとおし一人暮らしの高齢者の把握と交流が出来るよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、毎月のグループホーム内での活動や利用者の状態などを報告しホーム内の状態を理解していただいている。レクリエーションや行事など活動に対しての協力を得たり、行政、地域などから助言を頂いて運営に活かしている。	会議は、行政・自治会長・民生委員・家族等が参加し、2ヶ月に1回、開催されている。老人クラブが行うゲートボール大会への招待や地域交流への取り組みへのアドバイス等があり、サービスの向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険担当者とは運営会議、ネットワーク会議を通して事業所の状態を常に把握してもらっている。毎月1日には入所者の状態と待機者の状況を報告している	市主催のネットワーク会議等には職員が交代で参加し、事業所の現状を報告している。また、毎月、入居・待機者状況を文書で説明する等、行政と連携し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基本方針を全職員が理解し、身体の拘束に限らず、いかなる拘束もしないことを前提に毎日のケアを行っている	身体拘束の廃止について学習会で確認し、実践している。言葉による拘束があった場合は、その都度、管理者が職員にきちんと指導し、利用者の自由を奪わない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を通して虐待防止の必要性和気ない言葉からでも虐待につながることを理解し、防止に努めるとともに事業所内で虐待が行われることの無いよう常に注意を払っている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修をとおして制度を学ぶ機会を得ている。実際に制度を利用されているご家族もあり相談があれば応じる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行いご理解を頂いたうえで契約を行っている。改定があった際もその都度、ご説明をし納得の上契約の取り直しをおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年、グループホーム独自にアンケートを実施。ご家族の思いや要望などの把握に努め、その結果に基づいた改善策をご家族に報告しその後のホームの運営に活かしている。	家族の面会時や、家族へのアンケートを実施し、意見・要望をすくい上げるようにしている。災害時の避難誘導を心配する意見があるものの、全体的には、意見・要望は少ない。	家族が意見・要望等を表出しやすいように、職員のコミュニケーションを工夫されたい。また、家族会においても、意見・要望等を出しやすい場面づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議のほか必要に応じて話し合いの機会を設けている。さらにエリアでの全体会議を通し事業所単位での意見や要望などを提案する機会がある。	利用者一人ひとりに関する職員の気づきや意見は管理者に報告し、管理者を窓口にして家族へ伝え、毎月の職員会議で共有している。衛生面から、食堂の手拭きタオルをペーパータオルにしてはとの提案があり、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で常にスキルアップを目指し資格取得への取り組みがある。成果に対しての手当て、勤勉手当など職員が意欲を持って働けるような職場環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修プログラムがありレベルに応じて新人、中堅、リーダー、管理者などの研修を受講している。又法人外の研修にも積極的に参加を促し、受講が出来る環境が整っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ネットワーク会議が開催され参加をしている。市内の事業所との交流や事例検討会などの勉強会、意見交換などが行われている。法人内のグループホーム間で職員の交換研修を行い職員の質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安や要望を把握するため事前の話し合いを納得のいくまで行っている。入後の様子など安心されるまでお知らせをしたり電話での問い合わせにも対応できることをお伝えをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつの場合でも家族の立場での視点で話を聴き、納得、安心していただけるよう信頼関係づくりに努め、必要であれば家族と協力をしながら可能な限り要望にも対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	望んでいることや必要なことを見極めたうえでまず何が出来るかどうかすれば出来るかを話し合い、必要があれば法人内の各事業所の協力を得、出来る限りの対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人を尊重し介護をされる側とする側にならないよう、本人に介護されている思いを意識させないよう自然な形で介護を心がけ可能な限り必要最小限の介助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームで出来ること意外に家族でしか出来ないことをご家族にも理解して頂きホームと家族と一緒に利用者を支えていく様、心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味や楽しみの継続が出来るよう家族とも協力をしながら支援をしている。昔からの喫茶店でのお茶の時間をすごしたり美容院へ出かけたりされている。	職員は、親類、知人等の訪問者を居室に案内し、ゆったりと居心地良く過ごせるよう配慮している。馴染みの喫茶店や美容院へ出掛けたり、自宅周辺をドライブしながら馴染みの光景に触れ、喜びを職員と共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を大事にしながらも孤立することの無いよう協力して掃除や作業をおこなったり、レクリエーションへの参加を利用者同士が自然に声を掛け合って参加出来るような環境作りをこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても必要があれば情報の提供をおこなったり、ご家族の相談にも応じ支援をおこなう用意はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時の更衣の服選びからおやつ、食べたいものなど自己決定が出来る環境作りを心がけている。家族からも聞き取りをおこない出来る限り本人の意向に沿った生活を提供できるよう努めている。	アセスメントやアンケート、日頃の様子などから利用者一人ひとりの意向や思いを把握している。家族からも生活習慣などの情報を得ながら、本人の思いに寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより生活歴や嗜好、得意なこと、出来ることを把握しその後のケアに活かすよう情報を得るようにしている。その上でどんなサービスを提供できるかを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を送る上でちょっとした変化や思い掛けないような行動の気づきから意外な一面の発見や隠れていた力などを引き出すことが出来るよう見守りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月ごとに行うモニタリングの他、状態の変化によりプランの見直しが必要になった時点でカンファレンスを開きプランの検討を行い、その都度現状にあった介護計画を作成している	介護計画作成やモニタリングには、都合がつけば家族も参加している。職員と共に話し合い、かかりつけ医や協力医の意見と併せ、一人ひとりの利用者の現状に即した介護計画の作成や見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日中と夜勤の様子を業務日誌及び介護看護記録に記録をおこなっている。状態の記録だけでなく様子から伺える思いや気づきなども記録し介護計画作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの提供の殆どを職員が行っているが今後はもっと外に目を向け地域の住人、保育園の園児、子供会などが提供者になるサービスを目指している		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	しめ縄作りや、歌のボランティア、近所から野菜を頂いたり、畑を借りての野菜作りなどをとおして利用者との交流がある。地域の自治会から左義長や夏祭りに声をかけていただき出かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族にお願いをしているが本人、家族が希望する医者での受診を支援し必要があれば情報の提供をおこなっている。適切に診療が受けられるよう訪問診療の紹介や情報を提供している	かかりつけ医への受診は、原則家族の役割りとなっている。必要に応じ、かかりつけ医の往診もあるが、馴染みの病院へ行くのを楽しみにしている人もいる。緊急時には、職員が受診を支援し、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子の変化や気づきがあればケース記録に記入をしその情報は職員で共有し、受診の必要があればご家族にも連絡をし適切に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院であれば地域連携質との連携により速やかな入退院がおこなわれる。入院となった場合も状況報告書により安心して入院が出来る体制がある。入院中の経過や退院の見込みなど速やかに把握できる連携が取れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退所の条件は入所時に説明をし、ご理解をいただいている。状態の変化についてはその都度お知らせをし、重度化になった場合、ホームとして出来る限度を説明し、状態にあった施設への紹介を行っている。	重度化や終末期は、家族・医療関係者等と連携を密にし、介護できるところまでは支援することを入居時に説明し、同意を得ている。入居後は、状態の変化に応じ、家族・医療関係者と話し合い、方針を一つにし、状態にあった施設へ移ることを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を全員が受講、法人内の研修にも緊急時の対応がプログラムされており特養などでの勉強会にも参加をし応急手当や緊急時の備えをおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と合同での避難訓練と夜間召集訓練を行い意識を強めるとともに非常時に備えている。避難経路の確認、避難方法など常に意識をしている。スプリンクラーを設置。消防署の立ち入り検査実施	年2回、消防署の指導の下、利用者も参加し、地域と合同で、避難訓練を実施している。職員による夜間召集訓練も行われ、避難場所や避難経路が全職員に周知徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導時、排泄の失敗時などさりげない対応を常にこころがけ本人の自尊心を傷つけることの無いよう努めている。又声掛けにしても自信をもてたりやる気が出るよう工夫しながら行っている	職員は日々のケアの中で、なれ合いの言葉掛けや対応にならないよう、常に確認している。人格尊重、プライバシーに配慮した言葉掛けを徹底し、自信や、やる気を損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どちらかを選ぶ機会を作ったり自分の思いを表現できるよう自己決定や訴えることが出来る環境作りに努めている。高齢者にありがちな遠慮も考慮し言葉の奥の本音を聞き取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によってその日の過ごし方が違うことも考慮し常に利用者本位を基本とし、何のために、誰のため支援をしているかを考えながら支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は着替えや化粧の時間をつくっている。入浴後は化粧水や乳液での手入れため、希望時には購入したり家族に依頼をしている。起床時の洗面や整容など必要に応じて介助を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理配膳にいたるまで利用者と一緒にしよう努めている。利用者の得意な漬物や料理など教えてもらうこともある。配膳、盛り付け、食器洗いやテーブル拭きなど一緒に行っている。苦手な食材には代用品を用意している	食材の買出しや食事の準備を、職員と一緒に楽しんでいる。食事担当の職員と一緒に食べながら、利用者から食事づくりの経験を話題に、一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくり食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を使用することで栄養のバランスの取れた食事の提供が出来る。摂取が困難になった場合は刻み食、ミキサー食にて対応。状態に応じた摂取量で体重のコントロールや医師からの指導に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後は口腔ケアの声掛け、介助を行い清潔を維持している。又舌苔や歯茎の状態、義歯の状態を常に把握をしている。義歯は週に一度、ポリドントにつけ清潔の保持に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣や時間、量を把握し排泄の個別ケアに努めている。状態を把握することによって失敗をなくしたり、パットやオムツの使用を減らし、快適に過ごすことが出来るよう支援している。	職員は、排泄チェック表により、利用者一人ひとりのパターンを把握しており、言葉掛けによるさり気ない誘導を基本としている。パットの使用を減らし、トイレでの気持ち良い排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の把握が必要な方は記録用紙でチェックをおこなっている。排便を促すような食べ物や運動に心がけ下剤は極力さけるようにしている。朝の牛乳や繊維質の食べ物なども多く摂れるようメニューにも工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴で曜日もほぼ決まっているがその日の体調や気分にあわせ入浴日を変更している。入浴できない日は清拭をおこなっている。5月の菖蒲湯、12月のゆず湯、その他入浴剤も効果的に使用している。入浴が困難な場合は併設の機械浴も使用できる体制がとれている	週3回の入浴を基本とし、ほぼ全員が入浴を好み、季節の柚子等を入れ、職員と会話しながら、ゆったりと入浴を楽しんでいる。「風呂は家で入る」と、拒否する利用者が一人いるが、入浴日に家族に来てもらい、言葉を掛けてもらって安心して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子や状態から休息をすすめたり、日中の活動量や生活習慣を考慮し昼寝の促しをおこなっている。馴染みの枕、布団、居室の温度、明るさなどを周知し落ち着けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースには必ず処方箋をファイルし服用している薬の把握を行っている。状態の変化があった場合はその都度医師に報告をしている。誤薬、飲み忘れの無いよう2重、3重にチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品や、習字など他の人に見てもらう機会や、外出の予定をたてたり、季節の行事やレクリエーションに参加、役割をもつことにより達成感、生きがい、満足感を持っていただけるよう日々支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月一回は外出に出かけている。買い物や喫茶店など出来る限りご希望に沿うよう対応している。観劇や春はさくら、秋は紅葉又、初詣など季節ごとの外出も行っている。家族との急な外出のため当日の食事のキャンセルにも応じている	ホーム周辺の散歩を日課とし、喫茶店でのモーニングや外出等も楽しんでいる。四季折々の行楽、温泉での旅芝居見物等にも出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として預かり金の制度は行っていないが希望があればお金の所持を支援している。必要品の購入や出かけた際のおやつ代、喫茶店でのお茶代として使用されている。明細はケースに記録している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に使用していただいている。毎回ではないが絵手紙サークルでの作品をご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は職員の感覚ではなく利用者を主体に温度を設定している。居室で休んでいるときの日差しや窓からの西日が顔に当たらないよう注意をしている。また季節に応じて飾り物を一緒に作成し、室内を飾っている。季節の食べ物や行事は欠かさず行うようにしている。	広くて明るい共用空間には、大きな座敷テーブルやゆったりとして座わり心地の良い椅子が設置されている。文房具や雑誌等が手の届く場所に置いてあり、季節の花や共同作品が飾られている。広い廊下を利用し、食器等の収納棚が取り付けられ、利用者にも使いやすいよう並べ方の工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室とそのときに合った過ごし方で場所を選んでいただいている。職員は邪魔にならないように配慮をしたり、一緒に活動できるよう声をかけたりと様子をみながら対応をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい落ち着いた空間を提供できるよう室内は利用者の好きなように使っていただいている。趣味の継続のための道具や仏壇、写真など、好きなように使っていただいている	居室には掃き出し窓があり、広く景色が眺められ、開放感がある。クローゼットが設置され、不要なものは共用の部屋にも収納でき、整理が行き届いている。持ち込んだ筆筒や鏡台等が、その人が使いやすいよう、思い思いに配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示を大きくしたり、必要に応じて居室の名前を大きく表示をしたり、籠を用意し各々洗濯物があれば出せるよう自立を支援している。又刃物類や薬剤の管理・保管には注意をし安全に努めている		